

こんにちは 健保組合です！

『大畑運輸株式会社』

の巻

朝夕は涼しい風がほほをなでるようになり、あの記録的な猛暑がうそのように思われ、もう秋を感じさせられるようになった九月五日、事業所訪問の第一九回目としてお邪魔したのは柏市にある大畑運輸株式会社でした。

本場に今年の夏は「暑い」の一言に尽きましたが、「暦というものは確実にときを刻むもの、心待ちにした秋風の到来に心の安らぎを覚える今日このごろ……」などと雑談をしながら車を目的地に走らせました。

社会保障制度そのものの 早期の見直しが必要

今日の目的地は、国道一六号と同六号が交差する根戸工業団地とよば

る健康法はないとおっしゃいましたが、企業の発展のため常に闘っている前向きな姿勢が、バイタリティーを生み出しているのだと実感しました。

こうして、大畑社長の温厚なお人柄ながら精力的な方という印象が鮮明だった取材に、ピリオドを打ちました。

ご多忙のところ、取材にご協力いただきました。ありがとうございました。

最後の事務局からの問いかけに、



れる中にありました。いうまでもなくどちらを向いても動きやすい場所に位置し、物流の拠点としては非常にアクセスのよい場所になりました。社屋に入り、「こんにちは健保組合です！」とごあいさつ申し上げると、執務中だった笠松氏（健康管理事業等推進委員会の指導宣伝部会に所属しておられます）が出迎えてくださり、二階の応接室に案内していただきました。

私たちが入室しようとするよりも早く、応接室から同社の大畑吉男社長が出てこられ、「どうぞ」と迎え入れてくださいました。

事務局から組合の現況報告を申し上げ、取材が始まりました。

大畑社長は、最近における社会保険料等の公的費用の負担増を危惧し

ておられました。不況の嵐がまだまだ吹きやまないなかで、今後ますます進展する高齢化に伴い、さらなる負担増は必至、そうなれば企業にとっても被保険者にとっても厳しい時代が、もうすぐそこまでやってきているとおっしゃいました。現在の生産者層は厳しい負担を強いられ、そうかといって将来の公的年金等による保障は期待薄である。つまり、社会保障制度に対しての不信感が募りつつあり、早期に制度そのものを真剣に見直しをする必要があると熱く語られました。

社会保険に携わっているわれわれも同様の意見をもっていることはいうまでもなく、制度が疲労しているこの問題に対して、疲労回復の特効薬を期待してやみません。

人材重視、健康管理の励行 処遇改善などに鋭意努力

話題は、社の労務管理について移行しました。

同社は、前述した根戸工業団地内にある伊藤ハムの原料や製品を関東一円に運んでおられるそうですが、食品であるがゆえに時間との勝負が



常についてまわること。業務のシフトは二四時間体制を組んでおられ、そのなかでの労務管理は非常に難しく、ドライバー教育の問題、衛生管理の問題、時短の問題等、経営者には頭の痛い諸問題が山積しているということ。このような状況下でも人材を重視し、健康管理を励行し、処遇改善を図るなど、工夫を凝らして努力しておられるようでしたが、理想と現実とのギャップに押しつぶされそうになることもあるようでした。

続いて、同社の生い立ちについてお聞きすると、伊藤ハムが根戸工業団地に進出した当時は、自社で運送

申し遅れましたが、同社の取締役大畑実氏には、健康保険組合の組合議員をお願いしております。業務のため、あいにく取材にはご同席いただけませんでした。現場の生産運搬ラインで陣頭指揮をとっておられることと思います（お疲れさまです！）。

一般的に暑いときは、肉類の消費が低下するといわれますが、本誌が皆さんのお手元に届くころには「?????の秋」が真っ盛りでしょう。肉をモリモリ食べて、夏の疲れたからだに活を入れ直してくださいね。ただし、食事はバランスが大切、一日三〇種類が目標ですよ。